



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

「他責」と「自己責任」

コロナ禍から各学校の体育祭の取組が変わったと言われます。コロナ禍前から、PM2.5 や暑さの影響での変化はありました。練習時間も短縮され、例年通りというやり方ではなくなったということです。私たちが考える例年の流れとは違ってくると、「今年は、うまくいかないかもしれません」とネガティブな発言をする人もいました。ところが、やってみたら多くの学校から、「生徒は集中力と自発性が増し、より一層一丸となって取り組んでいました」という声を聞きました。

私は、この成功要因は、状況の捉え方だと思っています。

上記の例で話すと、

「練習時間が十分確保できないから仕方ないよね」と捉えれば、全体はその方向で動いていきます。そして、「暑い日が続いているから、なかなか練習がはかどらないよね。だからあんまり上手にはできないかもね」という言葉が無意識的にポロリと出ます。

「練習時間が十分に取れないなら、集中力を高めることで、成果を実感できるような工夫をしよう」と捉えれば、そのように動いていきます。そして、「暑い日が続いているから、なかなか練習時間が取れていないけど、そこは集中力でカバーだな。私たちならやれる。みんなで納得のいく最高の体育祭にしよう」という言葉で空気がつくられます。

ちなみに、学習や部活動でも同じことがいえます。時間をかけることがすべてではないのです。

この違いは何でしょう？

それは、物事をどう捉えたかの結果として、アウトプットに使う言葉が選択されていき、状況が変わっていくということです。

つまり、自分自身が状況をどう捉え、その結果としてどういう言葉を選択するかで違いは生まれるのです。このことは、日常にもつながります。

例えば、日々の学習について、Aさんは、「先生に命じられたから、しなくてはならない」、一方、Bさんは、「これからの自分のために、やっていく」という受け取り方があります。AさんとBさんの違いは、まず動機にあります。Aさんは、「依存」と「他責」の生き方になります。それでも仲間はできます。自分の安全・安心も手に入れることができます。Bさんは、「自由」と「自己責任」の自律の生き方になります。リスクはあるかもしれませんが、物事や状況を変えていくパワーに満ち、真の仲間とともに他者に貢献し幸福感を手に入れることができます。いつも言いますが、幸福感を左右するのは、選択の場面で、自分で決めたかどうかということになるのです。

私たちの心の中には、実は、AさんとBさんの両方が住んでいます。Aさんの生き方、Bさんの生き方のどちらが 良い／悪い、正しい／間違っている、ではないのです。でも、みなさんには、自ら動いているという経験を積み重ねてほしいと思っています。だから私は、できるだけBさんの生き方を引き出していくことが大切だと思っています。これが、入学式で私が話す、「守られている間に、守る力をつける」ということです。学校は、そういう場所なのです。

「女学院祭」の取組では、AさんとBさんの両方を体験する

(学校長 重枝 一郎)